

## 「神経疾患の iPS 細胞を用いた研究」（広島大学）において樹立された iPS 細胞の二次利用に関する情報公開文書

関西医科大学医学部 iPS・幹細胞応用医学講座では、広島大学の「神経疾患の iPS 細胞を用いた研究」において樹立された筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の方の iPS 細胞を、「ヒト iPS 細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症の研究」で二次利用いたします。本文書は iPS 細胞がどのように二次利用されるかを説明するためのものです。もし文書をお読みになり、不明な点があれば、下記の研究代表者までご連絡ください。本研究は関西医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、科学的妥当性、個人情報への配慮が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています（研究期間：研究機関の長の許可日～2030 年 3 月 31 日）。

### 1) 試料・情報の利用目的及び利用方法

ALS は未だに効果的な治療法・進行阻止法がありません。その大きな理由は、病態が生じ、進行し、最終的に神経変性に至るまでのメカニズムがほとんど分かっていないことです。ALS を克服するためには、病態発現メカニズムを解明し、有効な創薬標的を新たに見出していくことが不可欠です。広島大学原爆放射線医科学総合研究所・川上秀史教授（当時）「神経疾患の iPS 細胞を用いた研究」に同意いただき、川上秀史研究室およびその共同研究機関である理化学研究所 CDB・六車恵子専門職研究員（当時）の「神経系難病患者由来 iPS 細胞の樹立・分化ならびにその解析」により樹立された ALS 患者の方の iPS 細胞は、このような基礎研究のための試料として用いられます。

### 2) 利用する試料・情報の項目

本研究で利用する試料は、ALS 患者の方の樹立済み iPS 細胞です。それとは別に、解析結果の正確な解釈のために、患者の方の性別と発症年齢、予後に関する情報を用いることがあります。上記以外の個人情報は提供元機関から受領しません。

### 3) 利用又は提供を開始する予定日

2026 年 1 月 1 日。

#### 4) 利用する者の範囲

研究代表者（関西医科大学医学部 iPS・幹細胞応用医学講座 助教 木村俊哉）のみ。

#### 5) 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

関西医科大学医学部 iPS・幹細胞応用医学講座 助教 木村俊哉

#### 6) 研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他研究機関への提供を停止する旨

本研究で用いる iPS 細胞および性別・発症年齢・予後から、個人を識別することは不可能です。しかしながら、患者様やそのご家族の方々が、試料・情報の二次利用を停止したいとお考えになった場合には、いつでも研究代表者までご連絡ください。なお、停止することで患者様やそのご家族の方々が不利益を受けることはありません。本研究で用いる iPS 細胞と情報を他機関へ提供することはありません。

#### 7) 問い合わせ先

〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号

関西医科大学医学部 iPS・幹細胞応用医学講座

木村俊哉

電話 072-804-2632

e-mail: [kimura.tos@kmu.ac.jp](mailto:kimura.tos@kmu.ac.jp)